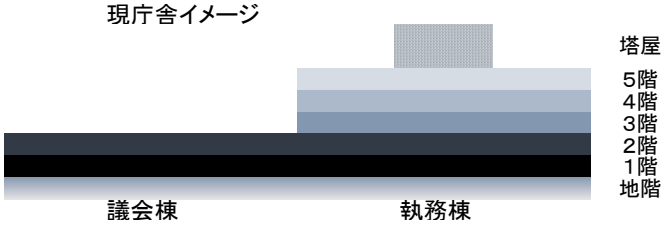
解体（減築）による耐震改修検討

1．現庁舎の執務空間と機能を維持できる状態で、耐震性を上げる検討をする。

現庁舎イメージ



2．耐震補強判定表

塔屋から2階までを解体のみ行う場合。（1F、地階を残す。）

①	X方向			Y方向		
	Is値	目標値	判定	Is値	目標値	判定
1F	1.11	0.72	OK	1.09	0.72	OK
BF	0.76	0.72	OK	1.1	0.72	OK

執務空間と機能が維持できる。

塔屋から3階までを解体のみ行う場合。（2F、1F、地階を残す。）

②	X方向			Y方向		
	Is値	目標値	判定	Is値	目標値	判定
2F	1.03	0.72	OK	0.73	0.72	OK
1F	0.58	0.72	NG	0.70	0.72	NG
BF	0.54	0.72	NG	0.74	0.72	OK

1階と地階は、Is値がIso（目標値）に達せず耐震性を確保できない。

塔屋から3階までを解体し「補強」する場合。（2F、1F、地階を残す。）

③	X方向			Y方向		
	Is値	目標値	判定	Is値	目標値	判定
2F	2.71	0.72	OK	1.11	0.72	OK
1F	1.66	0.72	OK	0.79	0.72	OK
BF	1.28	0.72	OK	0.68	0.72	NG

地階は、機械室に補強出来ないため耐震性を確保できない。
（1階、2階の補強を地階で受けとめることが出来ないためY方向が弱くなる）

塔屋及び5階、4階まで解体し「補強」する場合。（3F、2F、1F、地階を残す。）

④	X方向			Y方向		
	Is値	目標値	判定	Is値	目標値	判定
3F	2.23	0.72	OK	1.48	0.72	OK
2F	1.33	0.72	OK	0.59	0.72	NG
1F	1.15	0.72	OK	0.57	0.72	NG
地階	1.05	0.72	OK	0.56	0.72	NG

執務空間に一部耐震壁を施しても、2F～地階の耐震性を確保できない。

「八代市庁舎耐震診断（補強計画追加案）報告書」より抜粋。